

Q

小中一貫教育は混乱をもたらす

A

小中連携や一貫教育は今日的潮流

高田 克彦 議員



隣接する南小学校と南中学校

小中一貫教育は、学校の統廃合や様々な混乱を招く懸念がある。

質問一 指導の途切れとは。

二 一貫教育の必要性にじじめ、不登校の解消があるが、実態は。

三 教科担任制を小学校で行うことは人員を含め弊害があるのでは。

四 現在の通学区区域での課題は。

五 学校の統廃合をせずの通学区の見直しは、混乱を招くのでは。

答弁一（教育委員長） 小学校から中学校へ進学する際、学級担任制から教科担任制になり、学習内容や指導方法等が変わり、滑らかな接続ができないことである。

二 いじめは絶対に許されないものと対応し、一定の解消が図られている。不登校生徒数は中学で急増する傾向であるが、細かい取り組みの成果で、不登校児童生徒総

数は減少傾向である。

三 児童の実態に合わせ、無理のない効果的な範囲で導入している。

四 宅地開発等で市の状況は変化しているが、通学区を22年間大きく見直していないことや、小中学校間の連携に課題がある。

五 学区審議会に諮問中であり、各地域の諸事情を考慮し、混乱のないよう順次実施したい。

◎**その他の質問** 第3期障害者支援計画

Q

24年度市の各基本方針について

A

鶴ヶ島市を元気にしていく

齊藤 芳久 議員

質問一 高齢者対策について。

二 鶴ヶ島市の産業の方向性は。

三 環境・都市整備について、また水土里の交流圏構想・農業大学校移転の進展について。

四 子育て・教育について。

五 職員の削減の方針について。

六 基本方針の中で「元氣」の部分

分はなにか。

答弁一（市長） 高齢者のニーズや地域の事情を把握し、支え合い助け合いながら生活できるまちづくりを進めていく。

二 鶴ヶ島市の産業を育成・支援することによって活力あるまちを作る。

三 快適に暮らせるまちを目指し、



第5次鶴ヶ島市総合計画

道路環境の整備充実に取り組んでいる。跡地活用が将来にわたって地元と市のためになるようにする。

四 猛暑対策として小中学校空調設備設置事業を実施する。待機児童については、国の動向を見据えながら幼稚園との新たな関係を築いていきたい。

五 市の業務を抜本的に整理した上で採用者数等を精査し、職員数を減少させていく。

六 地域資源を生かした憩いの空間創出や農業の6次産業化、県と連携した企業誘致による雇用の創出などを進め、鶴ヶ島市を「元氣」にしていく。